



南西空調設備株式会社

代表取締役社長

久高 将泰 氏

会社経営は常に山あり谷あり。どんな企業にも、その会社の行方を左右したエピソードがあります。難局をどのように乗り切ったのか。大きな成功の背景には何があったのか。そこから得た教訓は何なのか——。地元経営者の想いに迫ります。

今回は、沖縄の日本返還の1972年（昭和47年）に誕生し、県内で一般管工事業や空調メンテナンス業務を手がける南西空調設備（株）（那覇市）です。コミュニケーションを重視し、風通しの良い社風を心がけ、日々邁進されています。

（取材・文／沖縄支店調査課 小川竜生）

久高 将泰

くだか まさやす

1984年10月生まれ。2012年に代表取締役社長に就任。

「20代で社長就任」

想定外となる入社

私は3兄弟の末っ子で、当初は会社を継ぐ考えは持ち合わせていませんでした。車が好きだったため、大学時代にはガソリンスタンドでアルバイトし、大学卒業後は自動車関連の会社に就職しました。板金・塗装職人の見習いとして整備工場勤務し、大好きな車の仕事に携わることが出来て、毎日が充実していました。ところが長兄・次兄ともに会社を継がず、必然的に3男の私に話が回ってきました。「おやじが汗水を垂らしてここまで大きくした会社を、息子が誰も継がないのはあんまりじゃないか」と思い、決意を固め、25歳で当社へ入社しました。

社長に就任

入社から3年後の28歳（2012年）で社長に就任しました。当時は社内で2番目に若く、私の方針に納得していない社員もあり、聞き入れてもらえないことが多々ありました。東日本大震災の翌年とい

うこともあり、景気に明るさありませんでした。社内の雰囲気も決して良くはないうえ、しっかりと話し合うこともなく、「もうここにはられない」と、次々と会社を離れ、離職率も高くなっていました。そのころ、妻は帰宅した私を見て「鬼の形相をしている」と心配するほど追い詰められていたようです。

本音で話せる職場環境づくり

悩み考えつつ試行錯誤を重ねた結果、「もの言えぬ組織や会社ではいけない」と気づき、意見交換やコミュニケーションを大事にし、誰もが本音で話せる職場環境づくりに尽力しました。そういつた中で、私と同世代の社員たちが中心となり、「社長がそこまで覚悟を決めているなら、自分たちも頑張る」と言ってくれました。社内環境の改善によって、社員の本来の力が発揮されるようになり、苦しい日々を何とか乗り越えることができました。社内改革を乗り越え、会社に残って共に闘ってくれた社員の皆さんのおかげだと感じています。

「求めよ、さらば与えられん」

大切にしている言葉は、「求めよ、さらば与えられん」です。自分が何を求め、どこに目標を置くのか。それが鮮明であればあるほど、得られる成果も大きいと考えています。そのプロセスとして大切なのは、出来る範囲と出来ない範囲を明確にし、出来ない自分を認め、人に頼ることや甘えることをすることで出来る方向へ組織として進めるということ。後輩や部下を成長させたいなら、新しいことに挑戦することで最大限の成長を促してもらいたいと思っています。

次に、大切にしている考え方は2つあります。一つ目は「苦手なことにこそ向き合う」ということです。得意なことや長所を伸ばすことは仕事では当たり前で、苦手なことや短所に向き合い認めることが成長の糧となります。二つ目は「できる理由で答える」ということです。「できません」だけ

「皆が一緒に働く仲間」



今年3月に開催された創立50周年感謝会

「変化に対応し、継続していくことが使命」

ではなく「～なら・～は出来る」と答えることです。できないことばかり言っていては、いつまでも仕事が進まないの、できることを考えて行動する姿勢を心がけています。そこから改めて本来の目標を見つめ、不要な対策や仮説をそぎ落としていくと達成できると考えております。自信を持てるかどうかは成功のカギだと考えています。

今後の展望

弊社は「思い切り働き、思い切り遊ぶ」をモットーとしております。社員数は25名、平均年齢は約38歳と50年続く企業としてまた業界としても若い組織であると思います。常識に囚われず挑戦者の気持ちで経営に励んでおります。わが社の今後は社員数と共に売上や利益を伸ばすことは当然の目標とし、業務改革を徹底的に行い、生産性と効率を上げることで品質を高め、顧客満足と共に給与水準を高めていきます。我々の仕事は今では人気が低い業種かもしれませんが皆様の生活インフラを担っているということは誇りある仕事であると思いますし、業界人として若者がこの仕事に憧れややりがいを感じて頂くような経営をして参ります。

会社概要

南西空調設備株式会社

TDB企業コード：900070556

法人番号：2360001001629

所在地：沖縄県那覇市銘苅1-10-12

電話：098-864-1125

設立：1972年（昭和47年）12月

事業内容：管工事業

URL：https://nansei-air.co.jp/

鼓動

調査員のひとり言

伝統行事

私の住んでいる地区は、伝統行事・伝統芸能が盛んである。旧盆が終わり、この時期より十五夜行事の練習が開始される。十五夜行事は3年ぶりの開催である。また、今年は3年に一度の綱引き開催の年であり、前回の3年前はコロナ禍のため中止となったことで実に6年ぶりの開催となる。綱引きの綱は、地区を北（ニシ）、南（フェー）に分けて、雄綱と雌綱の綱作りから行うため、私も参加した。先輩の方々より教えて頂きながら作り上げていく共同作業の中で、伝統行事を繋いでいく大切さを痛感した。久しぶりの十五夜行事の当日が待ち遠しい。



スポーツ

このところ、スポーツのイベント続きで、テレビ観戦の機会が多かったように思う。中でも、当地沖縄で開催されたバスケットボールワールドカップの日本代表パリオリンピック出場決定や、野球のU18ワールドカップ優勝など、うれしいニュースも多く盛り上がった。今もラグビーワールドカップが開催されており、まだまだ楽しみが続く。近年、気分が滅入るニュースや出来事が多いが、このような明るい話題がもっと増えるようになればいいと思う今日この頃である。



ウーパールーパー

2年程飼っていたウーパールーパーが天国へ旅立ちました。とても悲しく、我が家にきた日の写真を見返し、もっと美味しいものを食べさせてあげればよかった。等と取り戻せない後悔を沢山し、子どもと命の大切さを改めて学ばせて頂いた。ただ、問題となったのが、お別れの方法。調べてみると、両生類のため、カエルツボカビ症の恐れがあり、土葬はダメ。火葬がベストのため、キッチンペーパーで水分を拭き取り、ビニール袋に入れて、一般ゴミに出すとのこと。腐るため、放置するわけにもいかず、上記作業を行ったが、寂しさや悲しさ以外にもなんとも言えない気持ちになった。



琉球空手

数カ月前から娘（6歳）が新たな習い事として週3回琉球空手に通っている。そして理由は不明であるが、妻（33歳）も一緒に通っている。妻は学生時代からやっていたようで、黒帯を所有しているそうである。最近、娘は力がついてきた実感があるようで、頻繁に腕相撲をせがんでくる。当然私が余裕勝ちするのであるが、先日「ママの方が強いね」という負けゼリフを残していった。妻は体重で言うと私の半分程度しかないので、そんなはずがないと妻と真剣に腕相撲対決行ったら、負けた。

屈辱過ぎて、そうだ私は左利きだから右手は力が入らないんだ、そうに違いないと言い聞かせ、平静を装っている。

